

2021.3



佐賀大学病院ニュース

患者・医療人に選ばれる病院を目指して

News & View

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号

TEL 0952-31-6511(代)

病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

ウイズコロナの診療体制

新型コロナウイルス感染対策本部 本部長特別補佐

総合診療部 准教授 多胡 雅毅



新型コロナウイルス感染対策本部

看護部長 藤満 幸子



新型コロナウイルス対策本部より

佐賀県の高度急性期医療を守るため感染対策にご協力下さい。

当院では、新型コロナウイルス感染症の院内感染を防ぐため検温スクリーニング部門を2020年4月に開設しました。来院された全ての方に正面玄関でサーモグラフィでの検温とスタッフによる問診を実施し、症状のある患者さんを院外の診療用テント、または区画整備された院内の感染症用診察室で診療しています。夜間と休日には、時間外出入口で検温と問診を実施し、原則として理由のない入館をお断りしています。また入院患者さんには事前の検査や外部訪問者との面会禁止をお願いしています。

当院は県内唯一の大学病院であり高度急性期医療の砦として、その機能を維持することを最優先としております。当院で院内感染を発生させないことは、佐賀県の医療を守ることに直結しています。新型コロナウイルス感染症対策のため、患者さん、ご家族のみならずにはご不便をおかけしますが、この点を十分にご理解頂きご協力賜りますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

看護部より

新型コロナウイルス感染対策本部の主導のもと、重症陽性患者受入れの準備と適切な感染対策（院内クラスターを起こさない）を念頭に、4月当初から2名の感染管理認定看護師とともに対応を行ってまいりました。主に、①正確な情報共有と対策の周知、②院内感染防止（職員健康管理、入院・外来患者対応）、③重症陽性患者対応看護師の準備（感染対策、労務管理、メンタルサポート）、④フェーズ3期〜4期に向けての看護体制の整備（病床管理、人員の確保）、⑤院内外研修スタイルの変更、看護学生・院外研修生への対応、⑥陽性看護職員への対応、⑦地域貢献等の職員派遣等についてです。

特に、陽性患者を受入れた際の看護師の倫理的なジレンマとして、「感染するかもしれない、家族にうつすかもしれないなどの脅威・不安の



なかで思うようなケアができない」「家族に会えないまま最期を迎える患者に対しての無力感」「長期間、家に帰れないストレスや疲弊感」などは、メンタルサポートの重要性や適切な勤務シフトを組むための人員確保が最優先されることを痛感しました。しかし、患者に対し真摯に向き合う看護師の姿は誇らしく頼もしく思っています。

今後、感染防止対策（面会および入館者の把握、3密を回避した療養・職場環境づくり）、不測の事態に備えた体制整備、医療人としての健康管理、フェーズ3に合わせた人員確保と柔軟な応援体制強化、教育体制（オンライン研修環境整備、重症患者対応の教育）などについて継続的に取り組んでいきます。

就任挨拶

令和2年10月1日付で佐賀大学医学部附属病院・薬剤部の教授を拝命いたしました島ノ江千里と申します。私は、2014年から佐賀大学医学部社会医学講座予防医学分野の教員として疫学研究に従事し、当院の臨床研究センターで臨床試験の支援や管理に携わってまいりました。ご存知の通り、現在の薬学教育は6年制となり、薬剤師は医薬品の適正使用に「薬剤部」からアプローチするのではなく、より臨床に近い場所で、医療スタッフや患者さんに信頼され、適正な薬物療法支援を通じて、病気で苦しむ患者さんに貢献することが期待されています。さらに、大学病院の

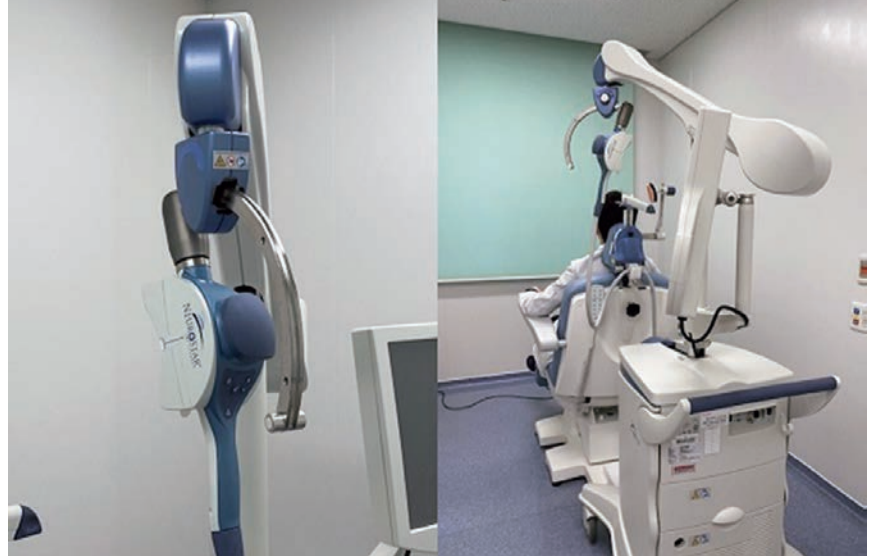


薬剤部 教授 島ノ江千里

うつ病に対する経頭蓋磁気刺激 (TMS)



精神神経科 助教 立石 晃洋
教授 門司 晃洋



▲Neurostar TMS装置（左：刺激コイル、右：装置全体）

精神神経科では2013年8月から気分障害患者、特に難治性のうつ病患者に対して反復経頭蓋磁気刺激 (rTMS) の臨床研究を行ってまいりました。TMSはコイル内の電流を磁気に変換し、頭蓋を通過する磁気を介して脳皮質を局所的に電気刺激するもので、従来の抗うつ薬で効果が不十分なうつ病患者に対して一定の治療効果があると言われています。2019年6月にNeurostar TMS装置による難治性うつ病治療が保険収載され、2020年9月から当科でも中等度のうつ病患者に対してNeurostar TMS装置による保険診療及び臨床研究を開始しました。全例入院下で6週間の治療を行います。これまで43例の患者さんにTMSを施行し、抗うつ効果をはじめ、うつ病の認知機能障害にも一定の効果を示しています。TMSは、副作用が少なく、非侵襲的であり、うつ病治療の選択肢の幅が広がることで期待されます。治療効果はすでに実証済みですが、その治療効果の詳細なメカニズムは依然として不明です。治療メカニズムの探索を含めて、今後TMS治療および臨床研究を継続していきます。

診療科紹介

病理部・病理診断科

病理部・病理診断科では、病理専門医、臨床検査技師などが患者さんを対象とした幅広い領域の病理診断を担当しています。病理診断とは体から採取された細胞や組織の形態を顕微鏡によって観察することによって患者さんの病態を把握し、診療に必要な情報を各診療科の医師に提供する臨床医学分野です。

現代医療における病理診断の重みは増えています。あらゆる疾患に精通し正確な診断を下すことが要求されており、細胞や組織の形態に基づく診断に加えて、遺伝子異常やタンパクの異常を加味した病理診断が重要になっています。手術で摘出された病変の広がりを検討することや、悪性腫瘍に対して行われた化学療法や放射線治療の効果判定も行い、近年目



教授
相島 慎一



覚ましく進歩しているがんゲノム医療の一翼も担っています。病気の名前を明らかにする診断だけでなく、患者さんの治療法を決定するための指針にもなっています。日々、顕微鏡の奥に患者さんを意識しながら、佐賀大学を含めた佐賀県の医療向上に努めています。

ハイブリッド形式での連携病院長会議開催



地域医療連携室長
野口 満

新型コロナウイルス禍のため延期されていた令和2年度の佐賀大学医学部附属病院連携病院長会議が、2月3日に開催されました。例年と違い、感染予防の観点から初めての試みでしたが会場とZoomを介したハイブリッド開催となりました。このため連携病院の多くの先生方はonlineでご参加いただきました。開会にあたり山下秀一病院長から日頃の連携協力のお礼のご挨拶があり、医師会を代表し松永啓介佐賀県医師会会長、吉原正博 佐賀市医師会会長にご挨拶頂きました。引き続き、令和2年度の地域医療連携活動状況報告を行いました。新型コロナウイルス禍にあっても紹介率・逆紹介率は例年と変わらず、当院と佐賀県下の地域医療連携が上手くいっていることが示されました。

①「ソーシャルワーカーから見た地域医療連携について」(松本美樹 MSW) ②「新型コロナウイルス感染症に対する医療体制について」(安西慶三 新型コロナウイルスウイルス感染症対策本部長) ③「特定行為に係る看護師研修について」(藤満幸子 看護部長) ④「院外からの新患予約システムについて」(石川慎一郎 医療情報部 副部長)。

例年この会議では、連携病院の先生方から当院への忌憚のない声をお聞きしておりましたが、今回の会議では、onlineでの参加が多かったことから、当院からの情報発信をお聞き頂いた形となりました。新型コロナウイルス禍にあっても、連携病院の先生方からの様々なご意見を反映し、連携を密にして今後の地域医療の充実に貢献したい次第です。会の終わりに、連携病院長会議副会長である織田正道 織田病院理事長にご挨拶頂き閉会となりました。

令和2年度 文化コーナー

全国からたくさんのご応募をいただき、誠にありがとうございました。優秀作品に選ばれた方々の作品を紹介します。

- 俳句 (社)日本伝統俳句協会会員「玉藻」同人 木下万沙羅 (選)
- 春めくや 水の匂いも 陽の色も 黒飛 義竹さん
- テレ会議 画面の隅に お雑さま ふわりねこさん
- リハビリを 励ますナース さくら草 右田 俊郎さん
- 卒園の 児がすまし顔 ゆるむ頬 渡辺 勇三さん
- 川柳 (佐賀大学医学部附属病院広報委員会 選)
- 退院に 歩幅広がる 母の足 さくらさん
- 健康が 宝と知った 退院日 山田 明さん

2010年(平成22年)から毎年募集してまいりました文化コーナーは今年度までで終了いたします。ご応募いただいた皆さまありがとうございました。

「院内緑化推進プロジェクト」

エコロジーガーデンの設置について

経営管理課

本院では、高度で安心、安全な医療を患者さんに提供するという医療の使命と同時に、患者さんへの「癒やし」や「安らぎ」を与える環境の整備にも取り組んでおります。

その取り組みの一つとして、平成21年10月から院内に「エコロジーガーデン」を導入し、院内の緑化プロジェクトを推進しているところです。

この「エコロジーガーデン」の設置につきましては、各企業様からのご協賛金により運営を行っており、今回も多数のご協賛をいただきましたおかげ

で、継続することができました。ご賛同いただきました皆様にはこの紙面をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

また、この院内緑化計画及び協賛活動は、今後も引き続き実施していくこととしておりますが、設置内容等の更なる充実を図るためにも、皆様方のお一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

ご協賛いただきました企業様名 (順不同)

- 株式会社信徳
- 一般財団法人栄仁会
- 佐賀ガス株式会社
- 株式会社佐電工
- ワタキューセイモア株式会社九州支社
- 株式会社浅沼組
- 峯松商店
- 株式会社大島産業
- 松屋株式会社
- 株式会社本田設備
- 株式会社パースジャパン
- 株式会社永池
- その他 (匿名希望)



令和2年度 病院長賞

令和2年度は医療技術の向上や患者サービスに貢献した左記の職員を表彰いたしました。



看護部 (総合外来・内視鏡室)
看護師 福田 智子



先進不整脈治療学講座教授
山口 尊則

連携病院紹介

なかふさ皮膚科クリニック

院長
中房 淳司

【病院の紹介】
なかふさ皮膚科クリニックは2008年4月8日に開院し、2016年1月7日に白石町福吉のメデイカルモール白石に移転致しました。

皮膚科は皮膚に生じる病変を「視て、さらに観て、そして診て見る」診療科です。視てすぐ判ることがほとんどですが、ときに観てもわからないときもあります。どのような場合もしつかりと診て看ることのできる皮膚科専門医として、患者さんに医療を提供できるクリニックを目指しています。

当院は医師1名、看護師7名、看護助手1名、事務員8名の常勤職員の体制で、コロナ感染に警戒しながら診療を行っています。

【本院との連携の状況】

入院治療や精査が必要な場合、生物学的製剤の投与を検討していただく場合や免疫賦活療法の感作を行っていた場合などに患者さんを紹介しています。

現在、成澤寛先生 (佐賀大学名誉教授)、井上卓也先生 (佐賀大学皮膚科准教授)、鶴田紀子先生 (福岡大学皮膚科講師)、西純平先生 (佐賀大学皮膚科医員) の御協力で最良の医療を提供しています。

